

「絶景。歴史探訪とパワースポットの旅 対馬・壱岐3日間(大人の修学旅行)」

～国境の島／対馬編(7月28日～29日)～

No.37 鷺海拓也

(西日本シティ銀行前バス停)

7月28日(木曜日)の初日、対馬行きの「ジェットfoil」に乗るために「ベイサイドプレイス博多ふ頭」集合となっている。博多駅からは、乗り換えなしのバスが出る「西日本シティ銀行前」に移動する。しかし、銀行のビルが見つからない。「グーグルマップ」にて位置を確認すると、何とビルそのものが建て替え工事なのか存在しない。田舎者の「ビルを見つければ大丈夫」の常識も、都会では通用しなかった。

(ろくべえ)

博多～対馬(厳原港)の移動はジェットfoil。壱岐(芦辺)経由で2時間15分。到着後は郷土料理にての昼食。刺身が新しくて美味しい。汁椀に「こんにゃく」に似た食感の麺状のものが入っている。尋ねるとサツマイモを細かく砕いて発酵させて、でんぷん質と繊維質だけで作った麺で、田畑の少ない島の保存食だそうだ。



ろくべえ

(宗家)

豪族の「阿比留(あびる)氏」が対馬を治めていたそうだが、15世紀より「惟宗(これむね)」氏が「阿比留氏」を討伐して、「室町幕府」より対馬国の支配を承認される。後に「惟(これ)」が取れて「宗家(そうけ)」となった。

戦国時代には、「文禄・慶長の役(朝鮮出兵)」で、当時藩主の宗義智(そう よしとし)が小西行長(こにし ゆきなが)の軍に従って釜山城・漢城・平壤城を攻略するなど、日本軍の先頭に立って朝鮮及び明を相手に戦い活躍した。また戦闘だけでなく行長と共に日本側の外交を担当する役割も担い折衝に当たっている。

江戸時代には、「関ヶ原の戦い」で西軍（徳川幕府の敵軍）に属したが、宗氏が持つ朝鮮との取引を重視され、本領を安堵された（※1）。後年、朝鮮との国交回復に尽力した功績が認められ、国主格・10万石格（※2）の家格を得て、朝鮮と独占的に交易することも認められた。

（※1）本領安堵＝忠誠を誓った武士に対して、幕府や領主が領地の所有権を認めて保障したこと。「本領（ほんりょう）」は先祖から受け継いだ領地。
「安堵（あんど）」は所有権を認めるという意味。

（※2）その当時、271の国があり「対馬国」はなんと上から40番位だったと言う。
いかに耕地面積の少ない土地で、朝鮮との貿易で財を築いていたのか分かる。

ややこしくなってしまったが、対馬国の「宗家」は昔からの朝鮮との親交があったが、豊臣秀吉（とよとみ ひでよし）の時代の「朝鮮出兵」にて、先頭に立って攻撃をした辛い思いをする。その後、徳川家康（とくがわ いえやす）からは自ら攻めた朝鮮国との国交を命ぜられ「厳しい条件」（※3）をクリアして回復させた。

（※3）何度か使いを朝鮮に渡らせたが、生還する者はいなかった。向こうで処刑されたと推測される。ようやく朝鮮が国交回復に出した条件は以下の二つであった。

- ① 朝鮮王朝の墓を荒らした者を連れて来る
- ② 幕府の「詫び状」を持って来る

無理難題な条件であったが、

- ① は、今になっては誰か分からない。処刑の決まっている罪人を身代わりにする
- ② は、幕府の承認は困難と思われ、印鑑を偽造して偽物の「詫び状」を出す事で窮地を脱したと言う。向こうも薄々気付いていたと思われるが、将来の国益を見越したのではないかとされている。



金石城跡（宗氏の城）



街角に残る多くの江戸時代の石垣

(朝鮮通信使)

国交回復後は、1607年より「朝鮮通信使」が来日。「文化使節団(学術、芸術、産業など)」の役割も担い、江戸時代(265年間)に12回来日した。1回に約500名が来日して、以下の往復8か月の行程を「対馬藩」の1500名が案内と護衛したと言われる。

(釜山～対馬～壱岐～福岡～下関～徳山～福山～明石～大阪～京都～名古屋～静岡～小田原～東京～日光)

(韓国展望所)

気象条件が良ければ約50km先の韓国を見る事が出来る。目の前の海上には「陸上自衛隊」のレーダーを備えた島が見える。「国境の島」と言われる所以だ。



(和多都美神社)

5本の鳥居のうち2本が海中に立つ「海の女神(豊玉姫命と彦火火出見尊)」を祀る神社。2020年9月の台風で、一番海側の鳥居が崩壊した。再建のために「クラウドファンディング」にて500万円を募るが、何と3倍の額の金額が集まる。「元寇(げんこう)」を題材にした対馬が舞台の「ゴースト・オブ・ツシマ」のゲームファンも多く寄付したらしい。



一番奥の「鳥居」が新しく建立された

(コロナウイルス)

韓国からは日帰りできる身近な外国として、平成30年には対馬の人口約3万人に対して年間41万人の観光客が訪れた。経済効果は92億円にも上ると言われる。そのため対馬には6か所に「免税店」がある。

(大船越と万関橋)

対馬は「リアス式海岸(周囲915km)」を有する南北約82km、東西約18km。北方領土と沖縄を除けば3番目(佐渡島~奄美大島~対馬)に大きな島。運河が造られる前の海上の交通は、周囲をぐる~っと回らなくてはならなかった。

「大船越(おおふなこし)」

江戸時代(1671年)に地元の漁船などが利用する目的で、3万5千人の人出で6か月かけて「島(山)」を削り作られた運河。

「万関橋(まんぜきはし)」

明治33年に南下するロシアとの戦争に備えるために1年かけて軍事利用の目的で作られた運河。下の写真を見ると、いかに大きな山を削ったのか理解できる。



「万関橋」からの風景